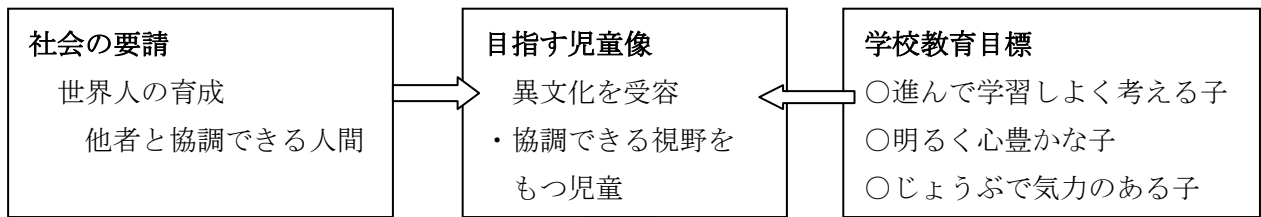


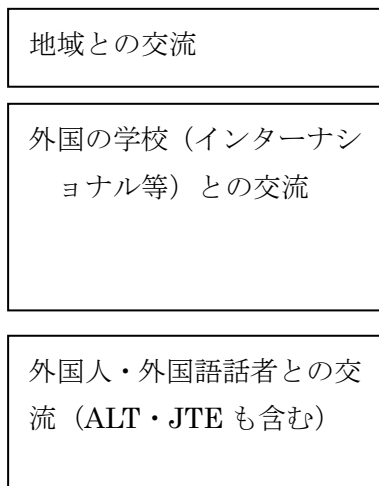
国際理解教育の推進

1. 目的

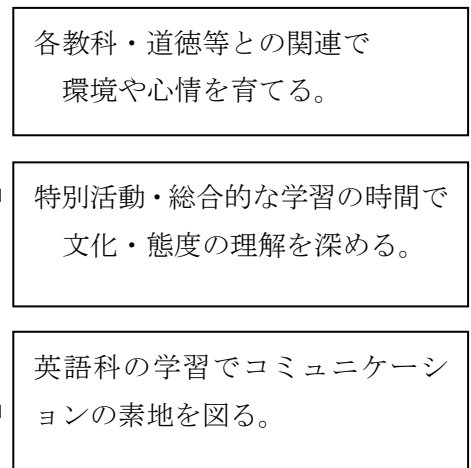


2. 方法

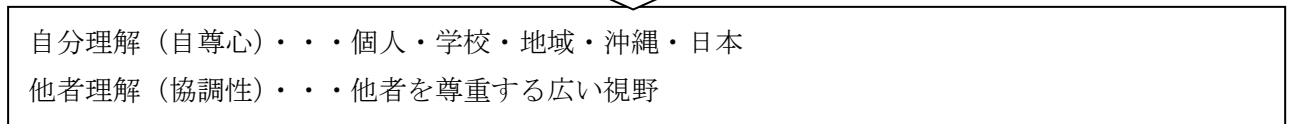
(1) 交流活動等で



(2) 学校活動で（教育課程を見通して）



3. 具体的実践



① 仲良くなる	② 思いやりをもつ	③ 違いを受け入れる	④ ミュニケーションを図る
○広い心で、協調しながら、問題を解決する。	○他の立場を考慮することができる。	○自国・他国の違いに気づき、受け入れる。	○誰とでも親しく言葉を交わしあえる。

4. 場の設定と時間

参加活動（例）	教科指導（例）	領域・時間（例）	交流活動（例）	外国籍児童との関わり（例）
○ユニセフの活動 ○赤十字活動	○国語・社会・英語等で ・自国の文化、異文化について ・英語学習を通して	○特活・道徳等で ・人権、平和について ・国際理解について	○外国人と ・国際交流員と ・JICA 研修員と ・インターナショナルスクール児童達と	○外国籍児童とのふれあい ・自己理解 ・他者理解

5. 本校の国際理解教育における、めざす児童像（育てたい態度）

本校の国際理解教育における、めざす児童像（育てたい態度）

- 国際社会における視野と感覚をもち、世界の人々と協調して生きることのできるたくましい子
 - ・世界に対する広い視野をもち、人の気持ちを思いやる子
 - ・身近な文化や伝統を愛し、伝えようとする子
 - ・自主性に富み、自己表現できる能力のある子（コミュニケーションを図ろうとする子）
 - ・異質なものにも、健全な好奇心をもって学習しようとする子
 - ・外国の文化・言葉を積極的に学び、他国の人々と支え合い、共生しようとする子
 - ・日本人として、誇りをもち、その役割を果たそうとする子

6. 国際理解の視点と目標

各学年（低・中・高）において、次のようなめあて・実践を通し、系統的に国際性豊かな児童の育成を図ることをねらっている。国際理解教育の視点を次のようにとらえる。

- (1) 異文化を理解し、それを尊重する態度や異なる文化をもつ人々と共に生きていく豊かな心情・態度の育成を図る。
- (2) 国際社会に生きる日本人として、自己を知り自己の確立を図る。
- (3) 国際社会において、相手の立場を尊重し、自己の考えや意見を表現する力を国語科・英語科の学習と関連させ高めていく。
- (4) 他国の人とも関わろうとする心情を育てていく。

低学年「関心をもつ」	中学年「知る」	高学年「理解する」
・外国のことを聞いたり、絵本や音楽で異文化に触れたりし、関心をもつ（ダンス・歌等を通してボディーランゲージ等を学ぶ）	・外国の人と会話したり、外国について調べたりし、自国の文化との違いを見つける。 ・身近な文化にも関心をもつ。	・外国の人と交流し、お互いの文化を伝えあい、理解を深める。 ・自国の文化について発信する。 ・世界に関心を広げ、将来の夢につなげる。

※ 国際理解教育のまとめとして、高学年（6年生と外国人との交流会を年1回行う）